

式辞 満開だった桜もこの雨で散り始め、春本番を迎えようとしている今日の佳き日に、振興会会長 佐伯玄一郎（さえき げんいちろう）様、まつら同窓会会長 中島 幸利（なかしま ゆきとし）様をはじめ、振興会及び「まつら同窓会」の役員の皆様、並びに新入生の保護者の皆様のご臨席を賜り、平成三十一年度 佐賀県立唐津西高等学校 第六十四回入学式を挙行できますことは、大変ありがたく、こころよりお礼申し上げます。

さて、ただ今本校への入学を許可されました百六十名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

本校は、明治四十年（１９０７年）に町立唐津女学校として創立されて以来、幾多の変遷を経ながら昭和三十一年に唐津西高等学校として出発し、本年度で百十二年の歴史を積み重ねてきた、長い歴史と伝統を誇り、令和という新しい時代に新たな歴史を作り上げることができる学校です。卒業生の数は二万人を超え、地元唐津市及び佐賀県はもとより、国内外の各分野で活躍されています。

新入生の皆さんは、こうした本校の魅力を十分に理解し、見事入学試験を突破して、今日の日を迎えていることと思います。実は、皆さんが着ているこの制服は、襟の内側に校章と１９０７という創立年の数字を入れたタグが付いており、西高生としての自信と誇りが、自然と身に付くように工夫されています。どうか、今の清新な気持ちを大切に、明日からの本校での生活を送ってください。

本校は、学校教育目標を、「二十一世紀を逞しく生き抜き、国際社会や我が国の発展に寄与するとともに、郷土と自然を愛し、地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成」と定め、そのために、「知・徳・体」をバランスよく向上させることにより、高い人格の形成とこれからの社会の変化に対応できる資質の育成を目指しています。そこで、皆さんには、次のことをお願いしたいと思います。

高校では、もちろん毎日の学習に取り組み、そこから多くのことを学びとって、自分自身の力とすることが求められます。しかし、学校という場で学びを得ることは、それだけではありません。みなさんが選択した高校というステージの先には、長い人生が待っており、自分自身の生き方を作り上げることが重要です。

人は一人では生きていけません。人と関わる中で自分自身のことがわかり、責任感や協調性、人を思いやる心なども養われていきます。積極的に人と関わり、人から学ぶことは、自分の将来を考えるうえで必要不可欠なことです。高校生活の中での多くの人との出会いを大切にしてください。

「他人と過去は変えられない。自分と未来は変えられる」という言葉があります。自分を変え、未来を変えるのに必要なことは何でしょう。それは、自分のあるべき姿を見つけること、志をもち志の実現に向かって前進することです。

唐津西高校の歴史、明治・大正・昭和・平成・令和と同じように、みなさんの未来は、今、現在からつながっています。そして、今この瞬間から新たな自分の存在をさらに磨き上げることで、「美しく咲き誇る梅の花のような希望に満ち溢れた時代」という意味である令和という時代が現実になっていきます。本校の伝統ある合言葉である「朝（あした）に希望、夕べに感謝」の気持ちを持って全力で取り組んでください。

保護者のみなさまに申し上げます。お子様のご入学、誠におめでとうございます。本日よりお子様をお預かりいたしました以上は、本校職員一同、「師弟同行」の精神で、学習面はもちろん、生活面におきましても、きめ細かに、時には厳しく叱咤激励しながら、指導してまいります。

しかしながら、お子様の健全な心身の成長は、学校現場の指導だけでは到底叶えられるものではな

く、ご家庭や地域の方々のご理解とご協力が必要であることは言うまでもありません。本日からの三年間、物心両面で多くのご支援を賜ることになりますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、本日ご臨席賜りましたみなさまに心から感謝申し上げますとともに、新入生の皆さんへの期待の一端を述べて、式辞とさせていただきます。

平成三十一年四月十日 佐賀県立唐津西高等学校 校長 吉山耕一郎